



こんにちは、 岐教事です！

岐阜教育事務所だより
第4号
平成30年9月20日発行

◇ 全国学力学習状況調査 質問紙調査からみる指導改善の方向 ◇

本年度4月17日に実施された「平成30年度全国学力・学習状況調査」については、国立教育政策研究所から「報告書・調査結果資料」（7月31日）、「授業アイデア例」（8月24日）等が公開されているところです。また、各校においても自校の結果を分析し、学力向上に向けた取組がなされているところだと思います。

今回は、昨年度より岐阜教育事務所から提案している「指導改善の3つのポイント」に関連した質問項目の回答状況から、これまでの取組を見つめ直し、指導改善の方向を考えます。

ポイント① 自己肯定感：「授業で子どもの自己肯定感を高める」こと

質問項目（1）自分には、よいところがあると思いますか。

質問項目（2）先生は、あなたのよいところを認めてくれていると思いますか。

【小学校】岐阜県の肯定的な回答の割合

【中学校】岐阜県の肯定的な回答の割合

（1）83.8% <昨年度との比較 +5.2> （1）80.8% <昨年度との比較 +9.0>

（2）86.4% <昨年度との比較 -0.6> （2）85.7% <昨年度との比較 +1.5>

質問項目（1）については、肯定的な回答をした児童生徒の割合が80%を超え、その割合は小・中学校ともに昨年度を上回っています。質問項目（2）については、昨年度とほぼ同程度の割合です。先生方の日頃の児童生徒への温かい励ましや認めの声かけが、自己肯定感の高まりに結びついていると考えられます。今後は、自己肯定感を感じられない2割の児童生徒がいることを念頭に置き、より多くの目で、各教科等の特質を生かして、「授業で子どもの自己肯定感を高める」指導の充実を図っていく必要があります。

ポイント② 家庭学習：「子どもに目的をもたせて、自己選択の場を設定する」こと

質問項目（12）家で、学校の授業の予習・復習をしていますか。

質問項目（14）学校の授業時間以外に、普段、1日当たりどれくらいの時間、勉強していますか。

【小学校】岐阜県の肯定的な回答の割合

【中学校】岐阜県の肯定的な回答の割合

（12）67.1% <昨年度との比較 +16.8> （12）70.5% <昨年度との比較 +15.7>

（14）75.8% <全国との比較 +9.6> （14）46.1% <全国との比較 +9.7>

※質問項目（12）は、昨年度の質問紙調査においては、予習と復習の2つの項目に分かれていました。

そのため、2つの項目の数値を合算し、肯定的な回答の割合を算出した数値で比較をしています。

※質問項目（14）の肯定的な回答の割合は、【小学校】1時間以上勉強している、【中学校】2時間以上勉強している、と回答した人数の割合です。

質問項目（12）については、肯定的な回答をした児童生徒の割合が昨年度と比較して大きく上回っています。質問項目（14）については、昨年度比は同程度の割合ですが、全国比では大きく上回っています。岐阜県の児童生徒は、学校以外での勉強時間が多い傾向が見られます。だからこそ、今後も、子どもたちが目的をもって家庭学習に取り組むための指導の充実を図っていく必要があります。

ポイント③ 話し合い活動：「考えが深まっていない3割の子への指導を充実する」こと

質問項目（57）学級の友達と（生徒）の間で話し合う活動を通じて、自分の考えを深めたり、広げたりすることができていると思いますか。 ※中学校は、質問項目（54）

【小学校】岐阜県の肯定的な回答の割合

【中学校】岐阜県の肯定的な回答の割合

（57）78.3% <昨年度との比較 +8.7> （54）79.3% <昨年度との比較 +12.1>

質問項目（57）については、肯定的な回答をした児童生徒の割合が昨年度と比較して上回っています。また、クロス集計（質問紙一教科）において、肯定的な回答をしている児童生徒ほど、教科の正答率が高い傾向が見られます。今後も、話し合い活動を通して自分の考えを深めたり、広げたりできるように、目的や視点を明確にした話し合い活動を行うなど、指導改善の取組の継続が必要です。

きらい！と光る すてきな実践を紹介します！

「音や音楽を聴く力」 を育む指導

音楽科編



小学校第1学年「はくをかんじてリズムをうとう」の授業を参観しました。児童は、3文字の言葉(ex.バナナ)を言いながら「たん たん たん うん」のリズムを打ったり、5文字の言葉(ex.オムライス)を言いながら「たた たた たん うん」のリズムを打ったりして、音楽づくりを楽しみました。

グループ交流の時に、「ゆうえんち」と言いながら「たん たん たん うん」のリズムを打つ児童Aがいました。教師は、「Aさんのリズムと先生のリズムを比べて聴いてね。同じかな。違うかな。」と声をかけ、「ゆうえんち」と言いながら「たた たた たん うん」のリズムを打って聴かせました。グループの児童にも、Aさんのリズムと教師のリズムをくり返し聴かせました。1回目、2回目は、どの児童も「同じ。」と答えましたが、3回目になると、一人の児童が「違う。」と答え、その違いを表現して示すことができました。Aさんも、リズムの違いを聴き分けて、打ち方を改めることができました。

間違いを指摘するのではなく、間違いに気付かせる指導によって、「音や音楽を聴く力」を育む素敵な実践でした。

一人一人が 主体的に取り組む

特別支援教育編



小学校特別支援学級(知的)の算数の授業を参観しました。

「棒グラフのかき方」、「かけ算の筆算」、「図形の角の大きさ」と、学習内容やねらいはそれぞれ違いますが、どの児童も、最後まで粘り強く課題に取り組むことができました。授業の中では、

- ・児童の実態を的確に把握し、どこでつまづくのか、どこで見届けるのかを見通した「わたり、ずらし」
- ・児童が、学習や活動の手順や内容を理解し、見通しがもてるようにする「流れの固定化」
- ・前時のまとめを本時の導入の復習に生かした「学びのつながり」
- ・児童が課題を解決するための意欲をもち、達成感が味わえる、個に応じた「適度抵抗のあるヒント・教材」
- ・一人一人の学習活動を確実に見届け、児童が学びを自覚することができる「即時評価」

等、一人一人が主体的に取り組むための、教師の指導方法の工夫が随所に見られました。それらの工夫によって児童が、「わかった」「できた」成就感や自己肯定感を味わうことにつながった実践でした。

統合的な考え方を 使って 課題解決する

算数・数学科編



小学校第6学年「分数のわり算」の授業を参観しました。分数÷分数の計算の仕方を考える場面でした。

教師は、ある児童に「計算の仕方を、数直線を使って説明してみよう。」と問うと「数直線を使って考えれば、今までに計算したことがある式に戻して考えることができます。」と既習である分数÷整数、分数×整数に帰着させて説明しました。また教師は、他の児童に「どうしてわられる数とわる数に同じ数をかけたの。」と問うと「わる数が整数だったら、計算ができるから、わる数とわられる数に同じ数をかけても、わっても大きさは変わらない『わり算のきまり』を使って考えました。」と説明しました。児童は、「分数÷分数の計算の仕方」を「図」と「式」、「きまり」とかかわらせて考えることで、「分子と分母を入れかえた分数をかけている」ことに気づき、統合的な考え方でまとめるよさを実感することができました。

「分子と分母を入れかえた分数をかけている」と言葉で言えば簡単です。しかし、その背景にはたくさんの数学的な考え方が潜んでいます。知識として覚えるのではなく、「なぜ、そうなるのか。」という疑問、根拠を明らかにして説明することを大切にしました。